

令和 5 年度結核診療連携拠点病院研修会 ごあいさつ

令和 5 年度の岡山県結核診療連携拠点病院研修会にご参加下さいまして誠にありがとうございます。今年度は 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したこともあり、4 年ぶりに現地開催での研修会を企画致しました。

平成 25 年から始まった本研修会も今回が第 12 回となりました。当初は DOTS の推進や結核の早期診断、その後、外国出生者の結核やコロナ禍における結核診療の在り方等をテーマとしておりました。ご承知のように、日本の結核罹患率は令和 3 年から人口 10 万人あたり 10 を切って低蔓延時代に入ったこともあり、昨年度は低蔓延時代の結核対策がテーマとなりました。そして、令和 4 年の岡山県の結核罹患率は 7.9 まで低下しておりますが、さらなる低下をめざして今年度も～低蔓延時代の結核感染対策をどう進めていくか～をテーマとして、現地での対面形式で開催させていただくことにしました。

まず、岡山県からは岡山県の結核の現状について、また保健所が実施する結核接触者健診について情報提供をしていただきます。次の講演では、公益財団法人結核予防会結核研究所所長 加藤誠也先生に「低蔓延時代における結核対策」と題して日本国内の最新の動向のみならず、グローバルな視点で今後の課題と対策についてお話いただけますことを大変楽しみにしております。

本日ご参加の皆様方にとりまして、この研修会が実り多いものになりましたら幸いに存じます。

令和 5 年 12 月 14 日

国立病院機構南岡山医療センター 院長

谷本 安